

東公民館

稲作体験

北伊予小学校PTA会長 野村雅章

北伊予小学校では、校外学

習の一環として5年生を対象とした稲作体験を実施しています。田園広がる周辺環境ではありますが、農産物づくりを体感したことはない子どもも多く、自分たちが食べる米を自分たちの手で苗から育てることは、子どもたちにとって日ごろ教室では学べない貴重な体験であります。

内容を簡単に紹介します。◎6月20日(金)、衣服をどろどろにしながら田植えをしました。横一列に並び、掛け声にあわせて餅米の苗を植えていきます。最後に「われらライスレンジャー」の立て看板



▲田植え

を立てて終了。

◎夏、子どもたちが植えた稲は暑さや強風にも負けず、昨年のようなミステリーサークル(タニシに食われた跡)も現れることなく、スクスクと育ちました。

◎10月20日(月)、黄金色に実った稲を刈りました。慣れない手つきで鎌を使う子どもたちでしたが、これぞ「人海戦術」あつという間に刈り終えてしまい、子どもたちの顔は秋空同様に晴れ晴れとしていました。

◎12月13日(土)、最後の行事の餅つきです。ほかほかと湯気の立つ蒸し米を子どもたち



▲稲刈り

は競うようについて、できたお餅はざっと4千個。校内中に配りました。



▲餅つき

こうして、学舎を教室から田んぼに移しての稲作体験は今年も無事終了しましたが、これもひとえに子どもたちに学習の場を提供してくださった方や、手取り足取りご指導いただいた老人会をはじめとする地域の方々のご理解とご協力があったことだと思えます。

子どもたちは今回の体験を通じて、田植えから餅つきに至るまで大勢の方々にお世話になったこと、また無事に餅米を収穫できたことに感謝の気持ちを持ちました。これからも学校と私たち保護者もとより、地域の皆様とも連携しながら、子どもたちにこのような学習・体験の場を提供できればと願っております。

補導センターだより

我慢する心の育成をめざして

伊予農業高等学校 成高久豊

伊予農業高校では、全校生徒571名が、「声出せ、汗出せ、力出せ」を合い言葉に、学校生活をより充実したものにしよう日々努力しています。私が生徒指導課長になった時、一つの言葉を合い言葉に一致団結した学校にしたいと目標を立てました。それが、実践努力目標である「声出せ、汗出せ、力出せ」です。

動していると地域の方々から高い評価を受けることができました。また、運動会や卒業式にこの言葉が生徒からたくさん出るようになり、卒業後も「この言葉の実践をしています。」との声を聞くことが多くなりました。

「声出せ」とは、基本的な生活習慣の確立、すなわち学校中心の生活をする。「汗出せ」とは、一日一回必ず汗を流し努力する心を身に付けること。「力出せ」とは、目標に向かってチャレンジすることです。

最近の子どもは我慢が足りないと言われます。我慢は全ての始まりであり、目標を達成するためには我慢だと思います。「声出せ、汗出せ、力出せ」の実践も我慢から始まっています。一つのことに集中し、努力を続けることも我慢、挨拶をしつかりし、友人や地域の方々と共に生き貢献することも我慢です。この我慢する心の育成をめざし、

教職員が一体となって地域社会に貢献できる生徒の育成を図っていきたいと思います。今後とも地域の方々のご指導やご協力をお願いいたします。

我慢する心の育成をめざし、教職員が一体となって地域社会に貢献できる生徒の育成を図っていきたいと思います。今後とも地域の方々のご指導やご協力をお願いいたします。